

第35回 高尾山忘年ハイキング

第4支部 三共商事(株)

理事 小川秀一

平成19年12月23日 雨のち晴れ

12月23日。いつも考えるのだが、何もこの年末の忙しいときに山登りをしなくても、良いではないか。でも、気が弱いのでそんな事は言えない。発起人に天皇崇拝者でもいるのかなあ。磯部さんと乾さんにじっと観察の眼を向けるが、その気配は感じられない。まあ、倫理も哲学もどちらかと言うと軟らか仕立てだからなあ(単なる曖昧なる意見ですので、関係の方はご了承を)。

ここで、お断りしておくが一昨年の「忘年ハイキング」もこの紙面で報告させて貰ったのだが、諸般の事情により登場人物をイニシャルだけにしたため、ご愛読者には実感をもって受け取って頂けなかった。今回の報告では実名で登場してもらおう。

霧雨。傘をさす程の事もないのだが。冬が足早に到来してくるこの時期、大陸の寒気団が日本列島まで下りて来て、北陸地方では昨晚から雪のようだ。しかし、心配された雪もこちら側には降らず、かえって今朝の気温は7、8度になっているようだ。少し歩くと汗ばんでしまう程、温かく感じられる。

「今日は楽なんだよ。ケーブルカーが使えるんだから。」京王線 高尾山口駅の前で今回の参加者10名は、ほぼ時間どおりに集合し、おもしろい準備運動やら身支度をすませた後に記念写真を撮り終えて、いざ出発。舗装された緩かな坂道をゆっくりと高尾山に向けて歩きはじめた。

登山家の磯部氏が先頭を切る。そのリュックの中には参加の皆さんが楽しみにしている山頂での紅茶を入れる重たい道具がいっぱい詰まっている。だが、足の運びが軽いのは流石である。続いて毎朝のウォーキングを欠かさず実行し、体型の軽量化を図る海老名氏だ。日頃の運動の成果を証明するようなシャープな動きをしている。そして、今回もさらに警戒な歩きを見せる石倉さんが続くが、その後は一団となっている。しんがりはいつもの様に驚異の体力を所持するクライマー・乾氏だ。

坂の両側はみやげ物屋が軒を並べる商店街である。新年になれば、参拝客でごった返えしていることだろう。エアポケットの様なこの時期、人はまばらである。我々もちょっとした人数で歩いてはいるが、はたから見れば酔狂者のグループと思われても、しょうがない状況なのだろう。そうこうしている内に、霧雨も

止んできた。

ほどなく、ケーブルカーの出発駅の清滝駅に到着。ここで、登山組6名とケーブルカー組4名の二班に分かれた。山頂に着いたら、ことごとく胃袋に納まってしまうのであろう人気抜群のスモークチーズとベーコン、そして水やウィスキーなどが肩に重くのしかかかっていて、取り敢えずはゆったりと歩いてはいるが、もうとっくの昔に息を切らしていた大根田氏と内田氏の表情が急に輝き、張りつめていた緊張がほぐれていく。靴の上から入念に泥除けを付けていたので、てっきり登山組に加わるのかと全員が思っていた森山氏は、迷わずケーブルカー組に入っていた。何のための泥除けか?登山組からブーイングが飛ぶ。また、今回が初参加で一見スポーツマンの米山氏も慎重を期してか乗って行くようだ。

これからの本格的な山道を前にして、緊張する登山組とは対照的に、ケーブルカー組はもう山頂での大宴会に思いを馳せている。

出発駅を後にして登山道とケーブルカーの軌道は少しの間並行する。負けてたまるかと足早に歩を進める登山組だが、後ろから歓声が聞こえ、ケーブルカーが追い越していく。その車窓から手を振る面々の何とも嬉しげな姿が見える。遠足気分のような。あんなお手軽組に負けてなるものか。われわれは組合員の幸せを願い、敢えて困難な道を歩む巡礼者の登山なのだ。意識は高まるが、足はもつれる。

最近、ミシュランが日本の三ツ星レストランのガイドブックを発売して、書店売り切れ続出の大人気であったが、山のミシュランが発表されれば、高尾山は間違いなく三ツ星である。事実、外人特に山好きのヨーロッパ人には、東京から1時間ちょっとで、手軽に本格的な緑の自然にふれられるので、大人気だそうだ。ヨーロッパの大都市ではこれほど近くで山登り気分が楽しめる所は少ないのかも知れない。

流れの音が心地良い、溪流沿いに杉の大木が目立つ森林の道を進む。途中、水行の場として知られる琵琶滝(びわたき)に立ち寄る。社殿の前に立ち、パチッパチッ、おごそかな気持ちでハイキング同好会の皆さんの安全を祈願する。後ろから「ここはお寺ですよ」と声が飛ぶ。……。「まさか、二礼二拍手一礼はしなかったでしょうね」と追い打ちが掛かる。……。まずい、やってしまった。でも、気が弱いので黙っている。…。

さて、心のこもった参拝をした後は、山道が川から離れ、細い尾根伝いに進む。

八王子が一望される見晴らし場所があり、そこで家族連れのヨーロッパ人にす

れ違った。ドイツ語とおぼしき会話が耳に飛び込んで来る。ドイツ人なのかなあ。ここは国際交流をと一瞬思ったが、何語で話せば良いのだろう。ドイツ語は話せない。英語もおぼつか無い。飲むほどに吞まれるほどにドイツ語を連発される某理事長(不参加者のため氏名割愛)であれば別だが、ここは止めておこう。

山頂が近づいてきた。最後に延々と続く階段はきつい。長いのはもちろんだが、歩幅が合わない、段差が意外にあるからかも知れない、もう相当に辛い。だいぶ急いだつもりだが、ケーブルカー組には負けたような気がする。この最後の階段を懸命に上る。気があせるが、足が言うことを訊かない。

昼近くに山頂に着くともうケーブルカー組の宴会は始まっていた。我々より25分も前に宴会が始まっていたのだ。もう、一部出来上がっている。宴たけなわである。取り敢えずベンチに座って、磯部さんにバーナーでお茶を沸かしてもらおう。大根田さんのスモークチーズが出てくる。どちらも本当にうまい。ウイスキーも最高だ。持ってきたおにぎりを頬張る。これぞハイキング同好会の醍醐味の一つだ。後から登って来られた原さんご夫婦が宴会に加わった。一段と盛り上がる。これで、12名である。

だが、スケジュールを考えるとぐずぐずしては居られない。30分位して一段落した頃合いを見計らい、かなり出来上がっているケーブルカー組を残し山頂を一足先に出発した。麓で本番宴会が待っているのだ。

広い山道を少し下りた所に、りっぱな構えの薬王院がある。全員で参拝、改めて参加者の安全と繁栄を祈願した。帰りの広い参道にはおでん、おやき、みそ田楽など美味しそうな店が並んでいるが、横目で見ながら舗装されたつづら折りの参道を急いで下りて行く。途中、ケーブルカー組と合流し、難なく出発点の京王線 高尾山口駅に到着した。忘年会場まではここから10分ぐらい国道20号線沿いに歩いた所だ。

20号線から折れて、車一台がやっという細い道路を山麓へ少し上がって行くと目的の料理屋さんの大きな建物が見えてきた。古い合掌造りのような民家とも農家とも思える2軒の家を、2階部分で片側がずっとガラス窓になっている渡り廊下で繋いだ構造だ。

そして、渡り廊下の下は中庭へと続く個性的なエントランスとなっている。その入口部には植え込みを配した大きな平たい石が両側に置かれ、豪華で落ち着いた佇まいを造り上げている。これが若林さんご用達のお店「ろくざん亭」である。かなり期待できそうだ。

優しそうなお店の仲居さんに案内され、黒光りする太い柱と梁で構成され重厚感のある玄関から、広めの階段を上り奥の間に通される。そこはまさに、合掌造りの広い屋根裏部屋に入ったような感じだが、障子越しに明かりが入り意外に明

るい。なんとなく落ち着く雰囲気を持った部屋だ。囲炉裏(いろり)を囲む。酒がうまい。炭火の火が落ち着く。黒豚のろくざん焼きも旨い。興が乗る。会話がはずむ。今

日2回目の宴会は盛り上がるだけ盛り上がった。皆さん相当酔いが回ってきた。…。

という訳で、高尾山も宴会も本当に楽しかった。

そして、紙面の都合で書けませんが、若林さんの奥様も加わっての3回目の宴会もあったのです。そうそう、その前に、八王子駅からほど近い若林さんのオシャレなお店を見せて頂き、以前から話題になっていたワンちゃんにも会えました。次回ご愛読者の皆さんの中で参加されたい方は、4月のハイキングにご参加下さい。多分、春爛漫の鎌倉で桜見物になります。そして、今年の忘年ハイキングも高尾山と大好評のろくざん亭になるかなあ。

では、またそこでお会いしましょう！必ずご参加下さいよ！！